

総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和元年7月11日（木）

児 童 男子17名 女子17名 計34名

授業場 5年2組

授業者 澤 田 康 介

1 単元名 「釧路の果てまでイッテQ！—釧路を盛り上げるためのプランを考えよう！—」

2 単元について

（1）単元観

本単元は、釧路市を教材として扱った単元である。釧路市に対する関心を深め、よさを追究していく中で、釧路市によさを見つめ直すとともに、釧路市を盛り上げていくために「自分たちにできること」を考えることをねらいとしている。

釧路市は、現在まで人口減少や観光客の減少などの課題を抱えている。また、釧路で生まれ育っても、まちに魅力が無いなど地元を離れる若者が多くなっている。しかし、その一方で避暑地として長期滞在者の増加や、駅前の再開発などの進展も見られる。そして、市を挙げた取組の他にも、釧路市によさを発信しようとする人たちによる活動も行われている。そこで、釧路市によさを見つめ直すとともに、そのよさを知らない人たちに発信していこうという思いから『釧路の果てまでイッテQ！—釧路を盛り上げるためのプランを考えよう！』というテーマを設定した。釧路市によさを探究する活動を通して、釧路市の「食」「自然」「名所」「気候」に触れ、それらのもつよさを改めて調べることにより、釧路市に対する見方や考え方を広げるとともに、地域への愛着を深めることができる考えられる。

探究活動では、釧路市に移住してきた方や市民団体の方へインタビューや聞き取りをするなど、釧路市によさを知る方々と直接ふれ合い、思いや願いなどを学ぶことにより、人との関わりを広げたり、自分の考えを深めたり伝えたりする力を培いたい。さらに、「釧路市を盛り上げるためのプランを考えよう」のテーマの基、たくさんのつながりの中で、学びを発信することを通して、「効果的に表現する力」、「自分の考え方を見つめ直し、よりよい生活を想像する力」が身に付くと考えられる。

（2）児童観

本学級の児童に総合的な学習の時間に関するアンケートを実施したところ、右のような結果となった。「総合的な学習の時間が楽しい」の肯定的評価は100%であり、総合的な学習の時間には楽しく、意欲的に取り組んでいることがわかる。また、「釧路市が好き」の肯定的評価は83%であり、不自由なく生活できていることから釧路市がよいところであると捉えている児童が多いことがわかる。

| アンケート項目 | とても思う | まあまあ思う | あまり思わない | 思わない |
|----------------|-------|--------|---------|------|
| 総合の時間が楽しい | 86% | 14% | 0% | 0% |
| 釧路市が好きである | 44% | 27% | 19% | 0% |
| 釧路のよいところを知っている | 36% | 47% | 19% | 0% |

しかし、「釧路市がよいところを知っている」について肯定的評価は83%であったものの、「まあまあ思う」の割合が多く、アンケートの際の様子では似た事象を挙げたり、友だちと交流しながら書いたりしている児童が多く、根拠を示して述べられる経験がないことがうかがえる。

本単元を通して、釧路市によさを見つめ直すとともに、自らテーマを設定し、課題の解決に向けて進んで調べたことを他者に伝えようとする児童を育てていきたい。

(3) 指導観

単元観と児童観を踏まえ、今年度の研究の視点である「課題を自分事として捉え、課題が連続していく学びのプロセス」に向け、本単元に関わる具体的な手立てについて記述していく。

①子どもが考えたくなる課題の設定 手立て I

児童に単元全体の見通しを持たせるのは勿論のこと、単元を通して何を学び、考え、どういう力を身につけていく必要があるのか、主体的な目的意識を持つことができる課題を設定したい。その際、単元の中で学んできた知識やこれまでの生活経験を活用できる課題を単元の中に位置づける。

本単元では、単元導入時に、児童自身が考える釧路市のよさと、移住してきた方が考えるよさをもとに認識のズレを生み、改めてよさを見つめ直していくために「釧路市のよさって何だろう?」という課題を提示する。そして、釧路市のよさを調べた上で、釧路で活動する市民団体の話を聞くことを通して、「釧路盛り上げプランを考えよう」という課題を提示する。一単位時間で、これらの課題を解決するために必要な学習内容を調べたり、整理したりするための課題を設定し、解決の見通しを持たせていく。

②多面的な考えが交流できる他者とのかかわり 手立て II

課題に対して、ペア・班単位・グループ学習等で交流しあうことで、自己の思考の深化へと導かせていく。こうした多面的な考えの交流場面の設定は練り合いの場面を中心に、単元を通して意図的に組み込む。こうした活動を意図的に展開することで、理由や根拠をもとにして表現力を育成していくとともに、1つ1つの事象に対して深く見つめていこうとする目を養わせ、その価値に気付かせたいと考える。

3 単元の目標

釧路市についての探究的な学習を通して、事象を多面的に追究する方法を身に付け、そこにある問題を主体的に見出し、友だちと協力してプランを提案するとともに、地域への愛着を深め、自己の生き方につなげることができるようとする。

4 評価規準

| 知識・理解 | 思考力・判断力・表現力 | 学びに向かう力 |
|--|--|---|
| ア. 釧路市のよさを見つめ直すことを通して、新たなのよさを捉えている。 イ. 釧路市をアピールするため、自分なりにの考え方をもつ。 | ア. インタビューや調査活動で得た情報を整理・分析する活動を通して、事象を多面的に捉えている。 イ. 発信したい情報や自分の考えをまとめ、効果的に伝えていく。 | ア. 釧路市の魅力を意欲的に引きだそうとしている。 イ. 主体的に対象(人、もの、こと)に関わり、自分との関わりを実感しながら、地域参画の意識を高める。 |
| | | |

5 単元指導計画（全 30 時間）

| 時数 | 学習活動 | 教師の働きかけ・手立て | 評価 | | | |
|--------------------------------|---|--|--------|---|---|--|
| | | | 知 | 思 | 学 | |
| 課題の設定 1 2 3 4 5 | ○単元の見通しをもつ ・釧路市にはどんなよさがある のだろう? ・本当にみんなが考えたランキ ングは釧路のよいところな のかな? ・G Tの話を聞いて、イメージ マップに足したい釧路のよ さはあるかな? | ○イメージマップを用いて、自分たちが思う 釧路のよさ（魅力）について考え、個人で 釧路のよさランキングを作成する。 ○G Tとして釧路に移り住んだ方を招き、G Tと自分が考えたランキングを比較する。 <u>釧路に住んでいる子どもたちが考えたよさ</u> <u>と、他の町に住んでいる人たちが思う釧路の</u> <u>よさの違いに気づかせ、ズレを生みたい。</u> | ア ア | | | |
| | 釧路のよさって何だろう? | | | | | |
| | 情報の収集 5 6 7 8 | ○雑誌やパンフレットをもと に、みんなが知らないよさを 調べる。 ○G Tに質問したい内容につ いてまとめ、情報を収集す る。 | | ア | | |
| | | | | ア | | |
| | | | | ア | | |
| | | | | ア | | |
| 整理・分析 9 | ○調べたことやG Tから得た 情報を通して、発信したい相 手やその方法を明らかにで きる。 | ○調べたよさやインタビューで学んだことを もとに、相手意識へつなげていく。 ○どんな方法で発信するとよいか検討する。 | ア | ア | | |
| 釧路盛り上げプランを発信しよう! | | | | | | |
| 課題の設定 11 | ○整理した情報をもとに、自分 が調べたいよさを選択する。 ○発信するプランについて、グ ループごとに話し合う。 ○調べること・発信する方法を 決め、活動計画を立てる。 | ○個人で選んだよさごとに、つながりがあり そうなもの同士で、活動を進めさせる。 ○聞き手の関心を意識させることで、どん な内容であると聞きたくなるのか考えさせ たい。 | | イ | | |
| 情報の収集 13 14 15 | ○活動計画に沿って情報収集 を進める。 | ○発信方法を見据えたり、「誰に」という相手 意識を持たせたりしながら、どのようなこ とを情報の収集を集める。 ○必要に応じて、追求する方法を選択できる よう、他の地域で行われている発信方法を 調べる。 | ア | ア | ア | |
| 整理・分析 16 17 18 | ○グループごとに、新たに見えた 釧路のよさをもとに、ふさ わしい発表の方法を検討。 ○調べた情報の中から、発表に 活用したいものを選択する。 | ○発信する「方法」を照らし合わせながら、 発信するために必要な「よさ」を選ぶ。 | | ア | | |

| | | | | | |
|------------------------|--|---|--|---|---|
| まと め ・ 表 現 | 21 | ○グループで選択した方法で発信する情報をまとめる。 | ○発信する相手がどんな方法であれば、「聞きたくなる発表になっているか」「納得できるものになっているか」ということを意識してまとめさせる。 | イ | イ |
| | 22 23 24 25 26 27 28 | ○発信したい相手に選んだ人に向けて「釧路盛り上げプラン」を発表する。 (観光客、地元の人、外国人等) | ○発信に向けて、連絡のとり方等を指導する。 | | |
| | 29 30 | ○再度イメージマップを作り、始めに作成したものと比較する。 | ○グループから個に戻り、自分が新たに見つけた釧路のよさについてイメージマップに表すことで、学んだ価値を実感させたい。 | | |

6 本時案

(1) 本時の目標

自分たちで調べた釧路のよさをもとに、友だちとの交流を通して発信する相手を明らかにし、発信する方法に見通しをもつことができる。

(2) 本時の展開 (9 / 30)

(○…発問、△…補助発問、□…指示・説明)

| 主な学習活動 | 教師の働きかけ・手立て | 備考 |
|---------------------------------|---|--------------------|
| 1. 前時の学習を振り返り、本時の学習に生かす考えを確認する。 | ○調べたり、G Tに聞いたりして、新しく気づいた釧路のよさには、どんなものがあつただろう？ | ・調べたことやG Tの話を想起させる |

課題 釧路を盛り上げるには、誰にどんな方法でよさを発信するとよいだろう?手立て I

2. 発信する相手をいくつか挙げ、全体で交流する。

- ・観光客（道内・道外）
- ・外国人
- ・長期滞在者
- ・地元
- ・移住してきた人

□釧路を盛り上げるために、発信するのにふさわしい相手はどんな人か WSに書きましょう。

3. 自分が発信したいと思う相手を選び、班ごとに自分が発信する相手と理由を交流する。

- ・観光客…1年間にたくさんの人たちが来るから
- ・地元の人…まずは釧路の人たちによさを知ってもらわなきゃいけない
- ・移住者…上村さんのように、釧路のよさを広めてもらえそう

□発信したい相手を選び、WSに書き込みましょう。

□WSに記入したことを交流しましょう。意見を聞いて、自分の考えを変えてもいいです。 手立て II

・釧路を盛り上げるために誰がふさわしいのかという視点で選ばせる

4. 自分が選んだ相手にどのような方法で発信すればよいのか考える。

- 【観光客】…キー ホルダー、CM
- 【地元の人】…カルタ、イベント、
- 【移住者】…パンフレット、新聞、体験
- 【外国人】…ツアーキャラクター

○クスロの人たちはどんな方法で発信していたかな？

○今まで見たことのある方法はありますか？

△発信するときのポイントは何だろう？

・G Tの話やこれまでの経験を踏まえて発信の方法を考えさせる

5. 本時で学習したことをもとに、次時へつなげていく。

□次の時間から、発信に向けて計画を立てていきます。